

## デザイン作品集の刊行にあたって

鳥根県隠岐の島町は、約一万年の昔、日本列島から離れ現在の姿となった隠岐諸島の中で最も大きな島です。鳥根半島の北方約 80 k m の日本海に浮かび、海岸や山々、動植物など悠久の自然と特有の歴史を今に引き継ぎ、現在、大山隠岐国立公園や隠岐ユネスコ世界ジオパークとして認定されています。

隠岐の島町に暮らす私たちは、このような環境で生活しながら、伝統と文化を育んできました。時代が移り人々の暮らしは変わっても、隠岐の島町には、今も昔も変わることのないふるさとを想う島人「隠岐びとの心」があります。

北前船の寄港地でもあった西郷港は、産業の流通や人々の往来で大いに栄え、まちは、海とまちがつながる西郷港周辺から西郷港へ流れる八尾川沿いに発展してきました。

しかし、時代は変わり、車社会の到来は町民の日常生活や経済活動に大きな変化をもたらしました。人口密集地の西郷港周辺から、広い敷地が確保できる郊外地域に施設や住宅が整備され、まちは拡散していきました。

このようなまちの広がりは、社会インフラの維持や地域のつながりなど、まちの活性化を図る上で大きな問題になっていることから、持続可能な都市構造を計画する必要があります。

そこで町では、今年 4 月に策定の立地適正化計画により西郷港周辺のエントランスエリアと八尾川沿いのセントラルエリアを都市の骨格と位置づけ、まちづくりを行っていくこととしました。

さらに、「世代をつなぐまちづくり」を理念とする隠岐の島町は、子どもたちも含めた誰もが参加できる開かれた場で話し合いを行いながら、西郷港周辺のまちづくり計画を策定し、「西郷港周辺地区の整備」を核として位置づけました。

西郷港周辺地区の再生デザインは、多くの案をいただくために、全国デザインコンペを行う事とし公募を行った結果、42 作品の応募をいただきました。

どの作品も隠岐の島町の未来を考えた「海とまちをつなぐ」すばらしいデザインでした。このような全国のデザイナーの皆様からの提案は隠岐の島町の大きな財産となります。この度のデザインの決定により、私がまちづくりの理念として掲げる、「生まれてよかった」、「住んでよかった」、「訪れてよかった」と思えるまちの実現に向けて、大きな一歩を踏み出します。

この「三つのよかったが響くまち」は、子どもたちは心明るく育ち、大人たちは心やさし

くふれあい、皆が健やかに生きるまちです。これから、このまちの再生デザインが実現してよかったという声が響きわたるよう全力で取り組んでまいります。

最後に、今回のデザインコンペにあたりまして、少ない時間の中、素晴らしいデザインを提案いただいた 42 の参加者の皆様、専門的な見地からアドバイスをいただきましたデザイン会議委員の皆様、42 作品を公正に審議していただきました審査委員の皆様、そして全ての作品について多くのご意見をいただきました、西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高等学校をはじめとした町民の皆さまに感謝申し上げます。

令和 4 年 7 月

隠岐の島町長 池田高世偉

## 隠岐の島町デザインコンペ作品集作成の経緯について

本作品集は、鳥根県隠岐の島町が実施した「隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペ」の第 1 次選考対象となった 42 作品のうち、掲載許可のある 41 作品および第 2 次選考対象となった 6 作品を集めた作品集です。

本作品集を編集するにあたって、本作品集の作成に至る経緯とその目的について紹介します。

鳥根県隠岐の島町では、かつてのにぎわいを失っていた隠岐の島町の玄関口にあたる西郷港周辺を再活性化することを目的に、町でははじめての住民参加型ワークショップ（「まちづくり談義」と称する）を平成 30 年から 3 年をかけて実施し、令和 2 年に「隠岐の島西郷港玄関口まちづくり計画」を策定しました。

ひきつぎ令和 3 年には、この計画を実現するために、デザインコンペを実施することとし、やはり住民参加型の談義により、応募要領の策定、応募者が踏まえるべき仕様書を作成しました。公募は、令和 3 年 10 月から同 11 月 19 日までとし、公募要領とともに、全国に向けて公募を開始しました。

全国から集まった応募作品は、全部で 42 件に達しました。作品は、公開性のもとで厳正な審査を実施するために、まずパネル展示を行い、こどもたちを含む町民による評価の機会を設け、その際、評価理由を整理して、デザインコンペ選考委員会に提出、委員会ではこれらの意見も含めて選考を進めました。

第1次選考委員会（令和3年12月19日）では、町民参加での公開討論のYoutubeでのライブ中継を含む選考プロセスを実現し、最終的には、選考委員会の推薦により隠岐の島町が第2次選考に進む6作品を決定しました。

その後、選考委員会では、第1次選考を通過した6チームに、追加検討事項を通知し、第1次選考をブラッシュアップしたデザイン作品の作成を依頼しました。

第2次選考委員会（令和4年3月6日）では、やはり町民参加でのYoutubeライブ配信を含む公開選考プロセスを実現し、「アイノマゲート」を隠岐の島町に最優秀作品候補として推薦しました。隠岐の島町では、この作品を最優秀作品に決定しました。

以上のように、隠岐の島町のデザインコンペに至る決定のプロセスでは、隠岐の島町民の参加によるまちづくり計画やコンペの仕様書作成、コンペでの最優秀作品の決定にいたるまで、最大限の公開性を実現しています。

他方、隠岐の島町では、応募作品は選考プロセスで公開されるということを応募者に通知して選考を進めました。応募作品を集めた作品集を作成することについても、ただ1件を除いて41応募チームから同意を得ています。

本作品集は、以上述べたような経緯からも理解できるように、第I部の応募作品と第II部の応募者が応募にあたって参考にした資料で構成されています。

第I部は、デザインコンペの第1次応募作品（ただし応募42作品のうち41作品）および第2次選考対象となった6作品です。

また、第II部は、応募者に踏まえることを求めた「隠岐の島町西郷港玄関口まちづくり計画」、「西郷港玄関口談義ニュース」、「西郷港周辺地区デザインコンペ仕様書」となっています。

本作品集は、読者が応募作品のそれぞれを知るだけでなく、応募者たちがどのような条件を踏まえて応募作品を作成したかを理解できるように配慮しました。

## 第I部 隠岐の島町西郷港周辺まちづくりデザインコンペ応募作品集

1. 第1次選考作品41作品
2. 第2次選考作品6作品

## 第II部 デザインコンペ応募者に踏まえることをもとめた基本資料

1. 隠岐の島町西郷港玄関口まちづくり計画
2. 隠岐の島町西郷港玄関口まちづくり談義ニュース

## 3. 隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペ仕様書

## 4. デザインコンペ追加要求事項

本作品集の作成を隠岐の島町が行う目的は、第一に、デザイン案の決定により動き出した設計・施工から竣工までのプロセスにおいて、デザイン案の決定過程を隠岐の島住民（小学生、中学生、高校生などの隠岐の島の将来を背負うこどもたちも含む）、隠岐の島町をはじめとする行政関係者、まちづくりの設計・施行に従事する事業者、隠岐の島町のまちづくりに関心をもつ研究者、大学院生・学生、まちづくりにかかわる市民活動を行っているNPOや市民など、多様な人々が理解できるようにすることです。

第二に、この作品集は、まちづくり計画の理念「海とまちをつなぎ、世代をつなぐ」の実現のために行っている町と教育委員会、学校との連携で進められる「次世代参加によるまちづくり」と「まちづくり参加を通して行われる次世代教育」という双方向の事業の基本資料となります。

第三に、隠岐の島町では、最大限の公開性を実現したまちづくりを進めているが、なかでも本デザインコンペは、選考プロセスのライブ配信も含む公開手法を取っています。このような手法を全国のまちづくりに従事している行政や研究者、デザイナー、まちづくりを学ぶ学生などに知っていただきたいと考えています。

本作品集は、応募してくださったデザインチーム各位にお送りするとともに、隠岐の島町のまちづくりに関係する機関、部署に置くとともに、隠岐の島町のホームページに公開いたします。

最後に、これがもっとも大切なことですが、本作品集作成のもっとも大切な目的は、コンペに参加してくださったみなさまに敬意を表することです。コンペに参加してくださったみなさまの努力と労力に対し、ここに衷心からの感謝の意を申し上げたいと思います。

隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペ選考委員会  
委員長 桑子 敏雄

※町民と小中高校生からいただいた意見集も資料として添付します。